

Y22b 国立天文台日食観測隊アーカイブ作成について (ii)

米谷夏樹 (国立天文台), 大越治, 入江誠, 日江井榮二郎, 篠田一也, 萩野正興

国立天文台では、(東京天文台時代を含めて) 日食観測隊派遣を1883年(明治16年)以降、記録に残っているだけでも39回実施している。我々は観測隊のデータおよび資料のデジタルアーカイブ化を進めている。このような天文学の古い観測データをデジタルデータとしてアーカイブ化する意義として、(i) その時にしか得られないデータの希少性、(ii) 電子化以前のフィルムや乾板の保管条件(湿度や温度)の制約や保管場所の必要性、(iii) データの取得方法などの内容について知っている人の減少、などが挙げられる。これらのデータをきちんと整理された形で残し、次世代につなげていくことは天文教育の使命である。今年度は2023年秋会で発表したY11bに加え、1932年8月31日のアメリカ日食から1983年6月11日のインドネシア日食までに起きた日食のうち15回の日食観測記録を調査、整理した結果とデジタル化した画像データの一部を公開するウェブページを作成した。複数の学会誌や機関誌に散在していた情報を取りまとめることで誤情報を修正したり、見落とされていた新たな資料の発見をしたりと大きな進捗があった。本稿では今回作成したデジタルアーカイブの一部を紹介する。